主催公演「タップ・ステップ・ジャズ！」を開催



演奏するメンバーら＝大野市上庄小で

当財団の本年度主催事業「タップ・ステップ・ジャズ！」は１１月１７日、大野市の上庄小と有終西小でそれぞれ開催。両校の児童や教職員、保護者ら合わせて約３００人が、“心も体も”踊る楽しいコンサートを満喫しました。

「タップ＆ジャズさわやか」（協力・勝山ブンゲー友の会）が公演。浦上雄次さん（タップダンス）、友吉俊郎さん（サックス）、斉藤チエミさん（ボーカル）、佐澤尚友さん（ピアノ）、今井雪央さん（ベース）、石田和裕さん（ドラム）の６人が息の合った演奏とダンスを披露しました。



タップダンスを踊る浦上雄次さん

ステージは、１９世紀末ごろに米国ニューオーリンズで生まれたとされるジャズの歴史を学ぶことからスタート。斉藤さんは「ブルースやゴスペル、クラシックなど様々な音楽が融合している」などと紹介しました。１曲目の「モーニン」が始まると、参加者らは体を揺り動かしながらジャズのリズムを体感！「Ａ列車で行こう」は浦上さんの巧みなステップに大きな拍手が寄せられ、「キャラバン」では斉藤さんの歌に合わせてスキャットを大合唱。「スイングしなけりゃ意味がない」は全員が足を踏み鳴らし、タップダンスを体験しました。



艶やかな歌声を披露する斉藤チエミさん

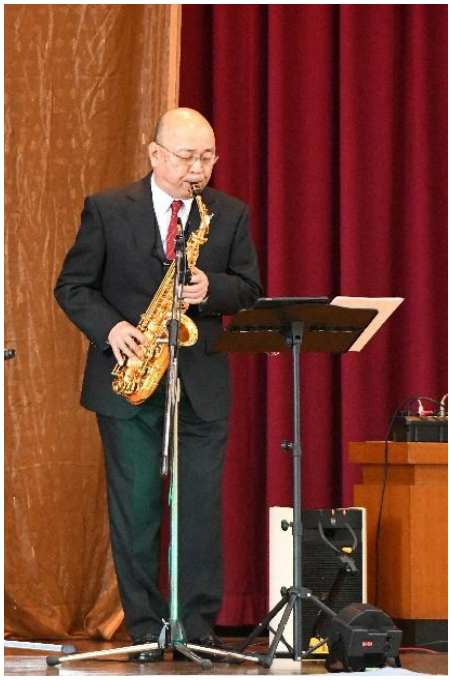
上庄小では生ごみの削減などで児童らが飼育しているミミズにちなんだ「ＭＭＺの歌」のスイングジャズ風アレンジを、有終西小ではジャズサンバに生まれ変わった校歌をそれぞれ大合唱しました。児童らは「タップダンスは難しかったけど楽しかった」「演奏がすごかった」「最高の音色を届けてくれて、ありがとう」「楽器でこんな音楽を弾けるのを初めて知った」などと感想を話しました。



ピアノの佐澤尚友さん



ドラムの石田和裕さん



サックスの友吉俊郎さん



ベースの今井雪央さん



楽しそうに踊る児童ら＝有終西小で



タップに挑む児童ら＝上庄小で



花束を渡す児童ら＝上庄小で



シルエットにも大興奮＝有終西小で